

提案（草薨）

自然環境に着目して、産業や自然災害、自然環境の学習を追究するための素地を育む学びにしたい。

「他地域の生活は、どんなくらしをしているか」どこも同じ？ちがうところもある？

→態度の②でよいか？

自評（渡辺）

学び方プランを立てている（色々な教科で）

予想するまでの間延び間があった

→予想の範囲が広すぎた。〇〇県では△△が盛んだと思う

グーグルマップの活用の仕方が難しかった。

→地形図や気候図を活用させたかった。

今日は予想だよと言ったが、子どもたちは調べ始めてしまった。

全体協議

横尾：

○仮説をもとに予想していくことがよかった。

△調べる範囲や内容が漠然としていた。

△地形図と気候図だけで予想するのは難しい。

△食料生産の導入で、地形や気候を生かしているかを検証してみる。〇〇だから米作りが盛んだと思う。

→本時のねらいがそもそも予想をたくさんして、次の単元につなげていく予定だった。

石井：

① 単元と単元をつなぐ授業は発想としてとてもよい。単元の終わりに位置付けるか、次単元の導入に入れるか。

② 今日の間いとねらいのずれがあった。

③ 今日は態度②になっているが社会形成に関わるようなねらいじゃなかったので、態度の①に近かったと思う。

加藤：

態度の③かもしれない……。が、態度②ではない。

和田：

問いはどうだったか？

△今日の学習の感想に「日本に住む人々は、どんなくらしをしているのかな」が出ればよいのではないか。

指導講評（中田先生）

（１）我が国の国土の様子と国民生活 → （５）我が国の自然環境と国民生活との関連
△「これからの５年生の学習に関わってくるよ」の言葉がない・・・

問いの把握

- ・授業後半に使う概念をつかむ時間があっさりしていた。
- ・ここで概念をゲットしていくことが、対象をみるポイントになる！
- ・帰納的な思考ででてきた事実（寒いも低いも気候や地形を生かしている）

△入り口がこのスピードでできる実践だったのか？

△めあてを予想するのに、どんな資料が必要？

→学びの必然性が全然なくなった。どうすればよいか？

本時のめあてが、本当にマッチしていたか？

△どこを、どのように調べればよかったのか

教師：これから学習するのは、ここを学習していくんだよ。この地域にはどんな自然条件があるのかな。

児童：農業の勉強は・・・米作りの勉強は・・・

△グーグルアースを用いて調べることの意味

△そもそも予想ができるのか？

→何を根拠に予想ができるのか？

山が多いところは・・・海沿いのところは・・・低いところは・・・高いところは・・・

調べて

- ・具体的な県を出すことで、予想がシャープになる。

考えて

・

まとめる

・

授業づくり

学んだことをどのように使うか？

個別最適化な学び → 指導の個別化（配慮） 学習の個性化（興味・関心）

協働的な学び → 対話のある学び

→自立した学習者

P-E フィット power と environment が一致していることがよりよい学びにつながる。

- ① 個人が求めていることが環境側から提供される
- ② 個人の欲求に環境側が適切な供給を与える
- ③ 環境側の要求に対して個人が自分の能力を合わせる。

→学びの道具を選択させることで、学びが主体的になり、深い学びにつながる。

いい授業には、子ども同士の学び合いや対話がある。

対話と対話的な学び

対話的学び

インタラクティブのなかにダイアログがあること！！

社会科は、社会的事象を調べてより確かな特色、意味、関係性などを捉える。

質問力「なぜ、そうなの？」「本当にそうなの？」

聞くということは、質問するために聞く！質問するということは、心情に迫るために聞く。